

<東北地区納税貯蓄組合連合会長賞>

税が救った命

伊達市立伊達中学校

2年 小木田 冬真

これは、去年の3月、僕が税金と無縁だった頃、税金の大切さを初めて実感させてくれた時の話です。僕の中学校生活への期待で、わくわく、ドキドキした入学式の最中に、僕の妹の病気が発見されました。それは、10万人に1人がかかると言われる珍しい病気で、病名は三心房心です。症状は、心臓に壁が出来、血の流れを止めるという恐ろしい病気です。この病気に妹がかかったと僕が知ったのは、入学式が終わってから少し経った夕方でした。母は、「妹といっしょに入学式に行きたい」と言っていたのですが、妹の様子のおかしさに気付き、病院へ連れていきました。もしも始業式に出席などしていたら、命の保障はないとまで医大の先生がおっしゃっていたそうです。妹はミルクをあまり飲まない方だったので、医大の先生や看護婦さん達も困らせました。しかし、手術後の妹の回復ぶりはめざましく、「こんなにきれいな傷跡は見たことがない」と看護婦さん達を驚かせるほどでした。無事妹が退院して、妹が定期的に病院に通うようになりました。その度に何千円、何万円と取られるのを知り、ついに僕は母に「こんなに払って辛いのか」と聞いてしまいました。しかし母は、「全て税金で支払われるから大丈夫よ」と別に問題無さげに言っていました。そして後日、手術費の通達が来ました。そこには数字がたくさん書いてあり、これを払うとなると、僕の習い事の未来を問われるようになります。しかしこれも、「手続きをすれば全額返って来るから大丈夫」父はそう言いました。

僕は小学生のころ、税金は無駄使いのお金だと、マンガやテレビのニュースなどの影響で、僕はずっとそう思ってきました。しかし、今回の妹の命を無償で助けてくれたの

は、その無駄だと思っていた税金でした。そうです、税金は無駄などではなかったのです。確かにこのような経験をしない人達にとってはただお金が取られているような気がします。でも、それも違うという事も教えてくれました。自分に返ってこない事もたくさんあるでしょうが、それでもこれからの社会を担う子供達への給付だと思えばいいと思います。

僕は、税金の大切さを知りました。だから、国の人達には、こんなに素晴らしい税金があることを子供達に胸を張って教えられる、そんな使い方をしてほしいと思います。